

第1回「都市づくりのグランドデザインの改定に向けた検討会」

議事要旨

1. 日時 令和7年7月1日(火) 13:00~15:00
2. 場所 東京都庁第二本庁舎31階 特別会議室22 (WEB 併用)
3. ゲストスピーカー
 - 一般財団法人民間都市開発推進機構常務理事 都市計画学会会長 渡邊 浩司 氏
「新たな沿線まちづくり」
 - 東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻 教授 出口 敦 氏
「地区の計画・デザインのDXとアーキテクチャ」
 - 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授 瀬田 史彦 氏
「東京にとっての国土計画 国土計画にとっての東京」
4. 議事
※議事次第の通り
5. 主な意見

- ・都市づくりのグランドデザイン改定への基本姿勢としては、社会変化等に適応できる「しなやかな東京」としていくことが重要。また、人口減少社会へ適応する土地利用のマネジメントや、気候変動へ適応するための人工被覆から自然被覆への転換などの検討が重要。さらに、スケルトン(都市基盤)とインフィル(土地利用)に分けて都市構造を捉えることや、都市的な土地利用に当たっては保全・修復・再開発の3つの手法を適切に組み合わせることが重要。
- ・今後増加が予想されるミドルシングルの暮らし方・働き方を含め、孤独・孤立に悩む人をなくし、つながりが生まれる社会を実現する視点が重要。また、多様なタイプのネイバーフッド(近所、近隣)の在り方を考え、帰属感を有するコミュニティのコアを生み出すことも重要。
- ・アジア諸国の台頭がみられるなか、東京がどのように勝ち抜くかという視点は外せない。
- ・データ活用等によるDXでは、人々の多様なニーズへの適応、社会基盤の老朽化に対応するファシリティマネジメント、地域の実情を可視化した上で施策展開に繋げることが重要。
- ・余暇の時間に着目し、時間効率を最大化できる都市の在り方を考えることが重要。
- ・官民の多様な主体の連携により、ハード・ソフトの両面からまちづくりを好循環させることが重要。
- ・多摩・島しょ地域での検討を通じて、人口減少時代に地方都市が目指すべきモデルが得られるよう検討していくべき。
- ・幅広い視野で東京を捉えなおし、グランドデザインの改定に向けて検討して欲しい。